

オータムフェス in 守山<11/29>のご報告

直前で中止になった東オータムフェス、感染者数の急増、第3波到来の予兆。今年最後のオータムフェスはどうなるのだろうかという不安が、きっと高校生たちの胸にはあったと思います。そんな中、無事開催された「もりやまふれあい彩祭り 2020」での高校生たちのステージ発表は、堂々たるものでした。

まず「高校生フェスティバル(以下、高フェス)」に参加している東海高校の代表二人による「東海ピースプロジェクト報告」(後述)は、戦争体験を語る役割を自分たち若い世代が引き継いでいかねば、という決意とともに頼もしさを感じました。東海のオンライン記念祭では、より多くの人に届くように演劇形式で伝える工夫をしたことなどを発表してくれました。



その後の記念式典冒頭の高フェスメンバーによる「希望プロジェクト」では、BIGフェスの群舞映像をバックに踊る今年最後の披露となる力強い群舞、そして弁論。特に県立熱田高校1年成重さんの「高フェスに参加する意義」の弁論が印象的でした。彼女は高フェス1期生である母親の勧めで参加し、公立の枠を超えた世界の広がりを感じてくれました。戦争、難民、貧困、人身売買、学費、学ぶ楽しさ、自分の思いを伝える難しさ。「高フェスは中高生が向き合わなければならない現実を知る学びの場である。この活動が特別なものであってはいけません。」という彼女の訴えは誰の心にも響くものであったと思います。他校の生徒さんたちも「高フェスに参加し



た当初はただ圧倒されていたが、2年目、3年目となると何をすべきか考えなくても体が勝手に動くようになっていた。」と舞台袖のインタビューで答えてくれました。

今回は高フェス特集と題し、高校生がどんな活動をしているか、その一端をご紹介します。

以下は先日守山で発表した代表二人の報告です。

高1 田枝真人君

僕は夏に西形久司教頭先生による県内の戦争の歴史の学習会、イラクで難民支援をしている高遠菜穂子さんによる講演、愛知県内の戦跡を自転車で巡るピースリレー、この3つのピースプロジェクトに参加しました。(注:ここでの学びを東海内外でも紹介・発信する活動が「東海ピースプロジェクト」)



西形久司教頭先生

高遠さんによる講演では、イラクの現実を知り、日本とは違って「死」がすぐ近くにあるようなところなのだというのを思いました。外国からは、「日本は平和主義を標榜しながら戦争に加担する国」と見られていることを知り、物事をもっと色々な方向から見る必要性を感じました。

自転車ピースリレーでは、県内の戦争の歴史をたくさん知ることが出来、地元でも多くの空襲やその被害があったことを学びました。今までは、愛知県でも被害



3日間で総距離175km!
愛知の戦跡を巡り、遺族会・戦争体験者から地元の戦争の歴史を学ぶ企画

を受けた、という事実だけしか知りませんでした。

しかしピースリレーに参加して、どのような空襲があったのか、その空襲でどのような被害にあった人がいるのか、語り部さんの話を聞くことによってより深いところまで戦争の事実を知ることが出来たので、とてもいい経験となりました。

3つのピースプロジェクトに参加して、まず感じたことは、自分の無知さです。学んだこと全てが知らないことばかりで、なぜ今まで知らなかったのだろうとつくづく思いました。折角このように戦争について学ぶ機会をもらったので、少しでも平和について考える人が増えることを願って、これからも学んだことや考えたことを発信していきたいです。



のべ23校 88名の高校生が取り組み、東海からも二人が参加

高フェスには、部活の先輩から誘われて参加しました。今まで様々な活動に参加してきた、BIGフェスティバルの運営だったり、普段学ぶことの無い平和のことや署名について知ることが出来たりと、新しいことにたくさん挑戦することが出来ました。学校では出来ないようなこと、例えば募金活動や他校生との交流など、色々なことが出来る場所が高フェスの魅力だと思います。高フェスには個性的でおもしろい人が多く、いつも楽しく活動しています。これからも高フェスの知名度を上げて、こんなに楽しい場所があるということを、校内だけでなく愛知県中の高校生に広めていきたいです。

【同じく自転車ピースリレーに参加した生徒の感想】

今日初めてピースリレーに参加しました。最近部活がなかったゆえに運動不足だったので、すごくしんどかったですが、周りの仲間を支えてもらったこともあって、なんとか走り切ることができました。大きな達成感を感じました。

西形先生や半田の語り部さんのお話を聞いて今日一番強く感じたことは、戦争中には自分たちと同じよう

な子たちが、今では当たり前に行っている学校に通うことなどができなかったことに対して、とても心が痛んだことです。今、普通に自分たちが自由に生活していることのありがたみを感じたし、それが平和であることだと思います。また、このようなことを学ぶことや後世に語り継ぐことの大切さも感じました。今日は普段学べないようなことを学べたし、学んだことに対する、今言ったような思いを襟に込めて走り切ることができました。ありがとうございました。 (高2 古賀允陽君)

高2 岩田佳太郎君

守山で発表した感想(苦労した点など)

夏に平和学習を行ったため、何とか記憶をたどり、発表の内容をまとめ上げました。スライドに使う画像も、スマホのアルバムの昔の



作成したスライドの一枚

ほうを探し出して作成しました。

平和学習では、語り部さんや今も戦争・紛争地域で活動している人たちから生の声を聞くことができ、学校では学ばないこともたくさん学べました。



語り部さんの話を聞く

そのような話を聞いた私たちは、今度は他の人たちに戦争・平和について伝えるため、今回のような発表を(守山オータムだけでなく、他の場所でも)行いました。

発表時間は10分で、10分と聞くと長いように聞こえるかもしれませんが、膨大な量の話と平和学習で聞いたのでむしろ短く感じ、当初の原稿では時間をオーバーしてしまったので、重要な部分を中心に内容を詰めていきました。

守山オータム以前にも何度か発表の場面はあったのですが、きちんとしたスライドを作るのは今回が初めてだったので、見やすく伝わりやすいスライドを意識して作成しました。

オンライン文化祭での発表

ご存知の通り、今年はオンライン上での文化祭でしたが、夏の平和学習のアウトプットの場として、コンテンツを作成しました。

戦争と平和という、特に中高生はあまり見てくれなさそうな内容なので、わかりやすさに重点を置きました。ただ単に文字の羅列ではつまらないので、高1の2月の授業改革フェスティバルで学んだことを活かし、先生と生徒との対話形式の演劇を制作し、発表しました。(もちろん先生役も生徒が演じました。)

その演劇と合わせて、BIGフェスティバルなどでも披露している「群舞」も撮影し、同時に発表しました。

見てくれた人から「わかりやすかった」などの感想をいただいたので、私たちが学んだことが上手く伝わったと思います、達成感がありました。

守山のチーフとしての経験について

10月下旬に始まったオータムも守山が最終日ということもあり、前日から一段と気合いが入っていました。ただ、実力テストなどもあって、みんなと会うのが久々となるので、少し緊張はしました。

前の月から担当の先生と連絡を取り合い、当日の成功のために念入りに準備してきました。そのおかげもあってか、当日は滞りなくスケジュールが進み、無事成功しました。

チーフは守山が最初で最後でしたが、楽しくできたので良い思い出になりました。



高フェスの仲間と踊る守山の群舞
「U R not alone」
(後ろはBIGフェスティバルでの映像)

東海で広めていきたいこと

現在東海の中で高フェスに関わっている人の多くは高2で、そのほとんどが受験勉強のために間もなくなくなるため、高1や中学生にもこの活動を知ってもらう必要があります。

私も高校生フェスに関わって、東海では知らなかったであろう世界をたくさん知ることができました。もちろん東海にも個性的な人はたくさんいますが、世の中には本当にいろいろな場面で一生懸命活動している人がたくさんいます。

どうしても東海にしていると成績に重きを置きがちですが、高フェスでは、学費に苦しむ子を救おうと街頭に立って一生懸命募金活動をしたり、他校の仲間や父母さんとの繋がりを大切にしたりと、普段の学校生活では出来ない活動をしています。ここに全ては書ききれませんが、私もこの活動を通じて、戦争のこと、一億円募金や私学助成のこと、LGBT や障がい、コロナとスペイン風邪の違いなど、本当に様々なことを学びました。



前夜祭パレード

さらに今年はコロナの影響で人との接触を制限されましたが、三密を避けるためにたとえオンライン上であっても、密にコミュニケーションを取ることは必要不可欠で、やはり人とのつながりは大切であることを実感した一年でもありました。

今度はそれらを後輩たちに繋げるためにも、残り少ない期間ですが、語り伝えていきたいと思います。

高フェス本部顧問の中学数学科 笠行裕文先生に、この活動の意義を先生の目線から凝縮してまとめていただきました。ぜひご一読ください。

笠行裕文先生の思い

この1年半程の中で、多くの東海生が愛知県高校生



他校の生徒も合流してのセンター会議

フェスティバル(以下高フェス)の活動に関わるようになってきました。

高2の杉浦君、岩田君らが中心

で高フェスの活動を「中高生が主体者となり、学びの場を要求し、自分たちが生きていく社会をより良くしよう」という思いを持って東海中高の学校内(以下学内)に広めていきました。現在では高フェスの活動のどんな場面でも東海生(中3も含め)が中心となって活躍する姿があります。



笠行先生と一緒に走りました!

昨年の秋、杉浦君が東海に学内フェスを作り、今年の6月から岩田君が東海の学内フェスの代表、高2の徳良君が副代表になり、今までは定例化できなかった

学内での会議を週1回のペースで行い、先日12月23日までで26回を数えました。

その中で特筆すべき一つに、夏の長時間会議があります。高2の杉浦君、岩田君、古賀君、高1の田枝君が夏のピースプロジェクト(東海高校教頭西形先生による愛知の戦争を学ぶ学習会、イラクからの中継で「いまの戦争」を学ぶ高遠講演、愛知の戦跡をめぐる自転車ピーススリレー)の報告をし、そこからの議論で東海でも「戦争」を語り継いでいくということになりました。今後の社会を先頭に立って担っていく東海生こそ、こういった学びが抜けてはならないと思います。どうしても教科の学習に学びの比重を置きがちですが、社会とつながり、自分たちが生きていく社会を学び、考え、発信していく、そんな活動を彼らは実践しました。



ピースプロジェクトでの学び

こういった思いを伝え、共感を求め、連帯していく中で、困難や辛い思いをすることもたくさんありますし、そのための準備にも多くの時間と労力を割きます。彼らは、そういったことを縦と横のつながりで乗り越えていく中で、授業の中だけでは学べない多くのことを学び、自分の殻を破り成長する中で、「共生」の心を身につ

けていきました。その様子は本校の三綱領の一つ「平和日本の有要な社会人となりましょう」を体現しています。

こういった彼らの成長を近くで見守ることができ、嬉しく、また誇りに思います。今後も学内の活動が広がり、一人でも多くの生徒が活躍の場を見出し、社会の主体者となるよう、父母の皆様、学内顧問の教員と連携してサポートしていきたいと思います。

◆次号◆

・第1回文化講座「妖怪まち歩き」の特集

編集後記

「高校生は無力じゃない」事を一番分かっているのは大人だと思います。高校生の今だからこそ放てる熱を糧に、学び、蓄え、成長していく姿を、父母としてこれからも応援したいと心から思います。